

# 水稻・大豆栽培情報 7月号

平成 29 年 7 月 3 日  
J A 柳 川  
南筑後普及指導センター

## 【水稻】

### 1 麦わらすき込みほ場の水管理

麦わらをすき込んだほ場では、ガスが発生し生育障害を起こす恐れがあります。ガスが発生した場合は、すみやかに落水し、ガス抜きを行います。それでもガスが発生する場合は、間断灌水を行ってガス抜きを確実に行ってください。

### 2 雑草防除

田植え後の除草剤を使用しても、ヒエが残る場合は「クリンチャー1キロ粒剤」を、広葉雑草が残る場合は「バサグラン粒剤」を、両方残る場合は「ハイカット1キロ粒剤」、又は「クリンチャーバスME液剤」を下記の要領で散布します。

雑草の種類	使用する農薬	使用量 (10a 当り)	使用時期	収穫前日数
イ科雑草	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg (湛水散布)	移植後 7 日～ ノビエ 4 葉期	30 日前まで
		1.5kg (湛水散布)	移植後 25 日～ ノビエ 5 葉期	30 日前まで
広葉雑草	バサグラン粒剤	3～4kg <b>(落水散布)</b>	移植後 15～55 日	60 日前まで
イ科・ 広葉雑草	ハイカット 1キロ粒剤	1kg (湛水散布)	移植後 15 日～ ノビエ 3.5 葉期 (効果発現まで 2～3 週間要する)	60 日前まで
	クリンチャー バス ME 液剤	1000ml (水 70～100 L) <b>(落水散布)</b>	移植後 15 日～ ノビエ 5 葉期	50 日前まで

### 3 中干し

株当たりの茎数が 20 本程度になったら、中干しを開始します。中干しは無効分げつの抑制や倒伏防止のため、必ず実施します。中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつくくらいです。(田面が白く乾かないよう注意します)

中干し後は、間断灌水を行い、根の活性を保ちます。その後、穂ばらみ期～出穂期にかけては、水を最も必要とするため、湛水状態を保ちます。

#### ○中干し時期の目安

「夢つくし」 : 7月15～20日頃

「元気つくし」 : 7月20～25日頃

「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」 : 7月25～30日頃

※中干しの遅れは、過剰分げつによる倒伏や籾数過剰による品質低下をまねきます。

時期が遅れないように注意します。

# 【大豆】

## 1 播種

播種期	7月5日～20日 (適期播)	7月21日～ (遅播)	※1株2粒播
株間	30～20cm	15～10cm	
10a 当り播種量	3～5kg	6～9kg	

播種深度は3cm程度の深さを基本に、土壤の水分状態に応じて調整します。  
土が乾燥している場合はやや深め（5～6cm程度）、過湿の場合はやや浅めとします。

## 2 雑草防除

播種後～出芽前まで(雑草発生前)に、ラクサー乳剤（400～600ml/水量 100l/10a）、  
又はラクサー粒剤（4～6kg/10a）を散布し、雑草の発生を防止します。

除草剤を使用する際、覆土が不十分な場合や、土塊（クレ）が大きい場合、あるいは散布前後にまとまった降雨があった場合は、薬害により大豆の出芽が抑制されることがあります。除草剤が散布できる条件を整えて、効果的に実施してください。

## 3 中耕・培土

本葉2～4枚の頃（播種15～25日後）までに、必ず1回は実施します。  
雑草抑制効果が大きく、薬剤防除と合わせることで、さらに効果が高まります。  
また、生育の促進や、排水性の向上、倒伏抑制に効果があります。

## 4 その他

除草剤を使用する時は、隣接するほ場に飛散しないよう十分に注意を払って散布してください。

**(最近、畦畔除草剤による事故が増加していますので、特に注意してください!)**

### 農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル（①適用作物、②使用量や希釈倍数、③使用時期や総使用回数、④有効期限）を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！